

2017年度決算概要 及び2018年度業績予想

2018/5/9

 **住友重機械工業株式会社**

社長 別川 俊介

INDEX

01 2017年度決算概要

02 2018年度業績予想

03 「中期経営計画2019」進捗

01 2017年度決算概要

01 2017年度 業績サマリー

単位：億円

■ ポイント

(1) 受注高

- ・ 過去最高の受注を達成。
- ・ 産業機械を除き前年同期比増加。
- ・ 建設機械、機械コンポーネント、精密機械の量産系が好調。
- ・ 建機クレーン（通年）、エネルギー環境（下期）の新規連結化。

(2) 売上高

- ・ 過去最高の売上を達成。
- ・ 産業機械を除き前年同期比増収。
- ・ 受注高と同様に、量産系好調また新規連結化により増加。

(3) 営業利益

- ・ 産業機械、船舶を除き前年同期比増益。
- ・ 建設機械、精密機械の増益大、機械コンポーネントも堅調。

	2016	2017	増減
受注高	7,111	8,640	1,529
売上高	6,743	7,910	1,167
営業利益	484	699	215
営業利益率	7.2%	8.8%	1.6%
経常利益	483	675	192
経常利益率	7.2%	8.5%	1.3%
特別損益	△10	△148	△138
税金等調整前 当期純利益	473	527	54
親会社株主純利益	336	347	10
親会社株主利益率	5.0%	4.4%	△0.6%
為替レート(ドル)	¥108	¥112	¥4

01 セグメント別営業利益

■ 対前期比較

単位：億円

	2016	2017	増減
<機械コンポーネント> 国内外の中小型およびロボット用精密減速機の市況堅調、大型も回復基調で増益。	91	118	27
<精密機械> プラスチック機械、半導体関連機種の上増により増益。	146	195	49
<建設機械> 油圧ショベルの需要増、建機クレーンの新規連結（HSC）により大幅増益。	14	174	160
<産業機械> 産業用クレーン、タービンの売上減により減益。	108	88	△20
<船舶> 新造船の市況低迷長期化により減益。	13	7	△6
<環境・プラント> エネルギー環境の下期新規連結（SFW）あるも国内の売上減により小幅増益。	91	95	4
その他	21	21	△0
計	484	699	215

※ HSC: 住友重機械建機クレーン
SFW: Sumitomo SHI FW

01

連結貸借対照表

単位：億円

	2017/3末	2018/3末	増減		2017/3末	2018/3末	増減
流動資産	5,076	5,648	572	負債	3,873	4,506	633
現預金	638	882	244	買掛債務	1,473	1,842	369
売上債権	2,425	2,694	270	前受金	322	425	104
たな卸資産	1,627	1,674	47	有利子負債	605	642	37
その他	386	398	12	その他	1,474	1,597	123
固定資産	2,888	3,307	419	純資産	4,092	4,450	358
有形固定資産	2,277	2,396	119	株主資本	3,448	3,694	246
無形固定資産	152	503	351	その他の包括利益 累計額	538	616	78
投資その他の資産	459	408	△51	非支配株主持分	106	140	34
合計	7,965	8,956	991	合計	7,965	8,956	991
				ネット有利子負債比率	△0.4%	△2.7%	△2.3%
				自己資本比率	50.0%	48.1%	△1.9%

※ S F W連結による総資産の増加額 607億円

01

連結キャッシュフロー計算書

- 運転資本の改善により営業CF大幅プラス。
- 積極的な投資を実施。

単位：億円

区 分	2016	2017	増減
営業活動	382	711	330
税金等調整前当期純利益	473	527	54
減価償却費	203	230	27
運転資本	△224	51	275
その他（税金等）	△71	△97	△26
投資活動	△259	△378	△120
（フリーキャッシュ・フロー）	123	333	210
財務活動	△178	△101	77
現金・現金同等物増減	△76	244	320
現金・現金同等物期末残高	610	855	245

単位：億円

	全社				油圧ショベル			
	2016年度通期 (16.4-17.3)		2017年度通期 (17.4-18.3)		2016年度通期 (16.4-17.3)		2017年度通期 (17.4-18.3)	
	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)
北米	1,079	16.0%	1,185	15.0%	289	20.8%	341	19.1%
ヨーロッパ	535	7.9%	709	9.0%	141	10.1%	117	6.6%
アジア(除く 中国)	695	10.3%	904	11.4%	142	10.2%	220	12.3%
中国	502	7.4%	804	10.2%	180	13.0%	373	20.9%
その他	229	3.4%	286	3.6%	95	6.8%	135	7.5%
船舶海外	312	4.6%	367	4.6%				
日本	3,391	50.4%	3,655	46.2%	545	39.1%	600	33.6%
総売上高	6,743	100%	7,910	100%	1,391	100%	1,787	100%

※ 為替レート（ドル） 16年度：¥108 17年度：¥112

02

2018年度業績予想

02

2018年度業績予想

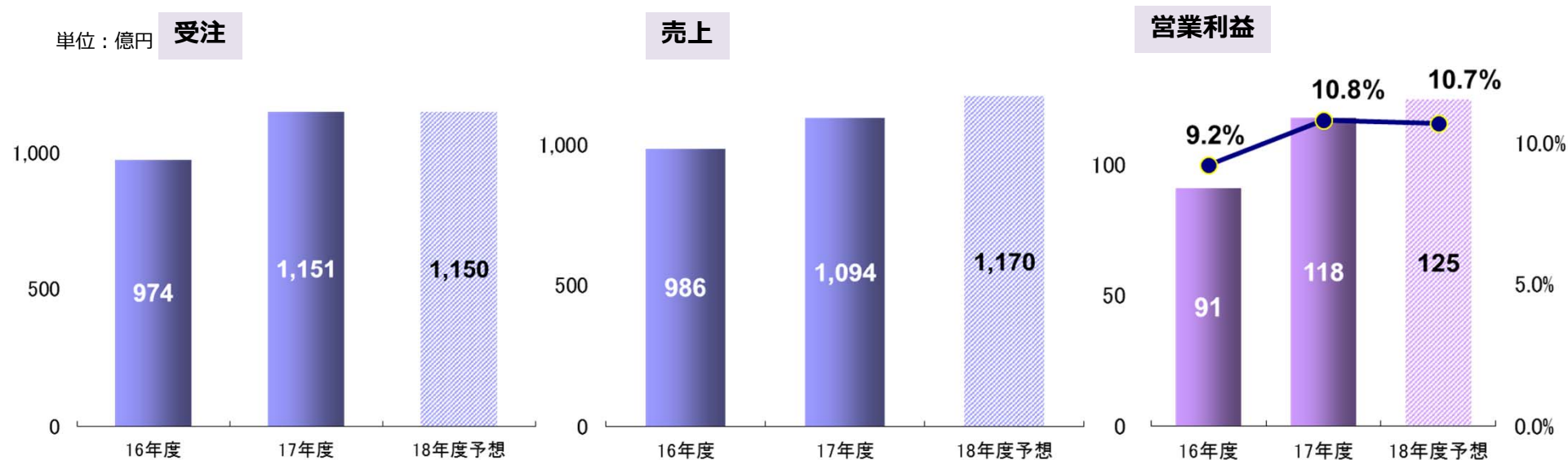
- 堅調な受注環境が継続し増収。 ■ 円高、コスト上昇などにより営業減益。

単位：億円

	2016年度実績	2017年度実績	2018年度予想
受注高	7,111	8,640	8,700
売上高	6,743	7,910	8,500
営業利益	484	699	640
営業利益率	7.2%	8.8%	7.5%
経常利益	483	675	618
経常利益率	7.2%	8.5%	7.3%
特別損益	△10	△148	△40
親会社株主純利益	336	347	380
親会社株主利益率	5.0%	4.4%	4.5%
1株当たり配当	80円 (株式併合考慮後)	85円 (同左)	93円
配当性向	29.2%	30.1%	30.0%
ROIC(税引後)	7.3%	10.3%	8.9%
【参考】ROE	8.7%	8.4%	8.6%
織込レート(ドル)	¥108 (実績)	¥112 (実績)	¥105

02 機械コンポーネント

- 17年度：** 中小型および精密減速機の市況は堅調、大型機種在市況も回復基調。国内の大型減速機事業を住友重機械ギヤボックスへ統合。精密減速機の生産能力の増強投資を継続。
- 18年度：** 中小型の変減速機および精密減速機の市況は堅調を維持、大型機種も回復基調継続の見込み。精密減速機の新商品開発・生産能力増強、ベトナム工場の拡張によるグローバルサプライチェーンの強化を進める。



02

精密機械

＜プラスチック機械＞

17年度： 欧州の堅調な需要に加え、中国での電気電子関連需要が増加するなど高い需要が持続。

ドイツの子会社と共同開発した電動射出成形機の新商品を欧州市場へリリース。

18年度： 中国での電気電子関連需要は平常化へ向かう見込み。

欧州での電動射出成形機のシリーズ化、国内の生産革新投資を積極的に進める。

＜精密その他＞

17年度： 国内外の半導体関連需要が好調に推移、医療機器用の極低温冷凍機他も堅調に推移。Persimmon社を連結化し真空ロボット他の事業展開開始。

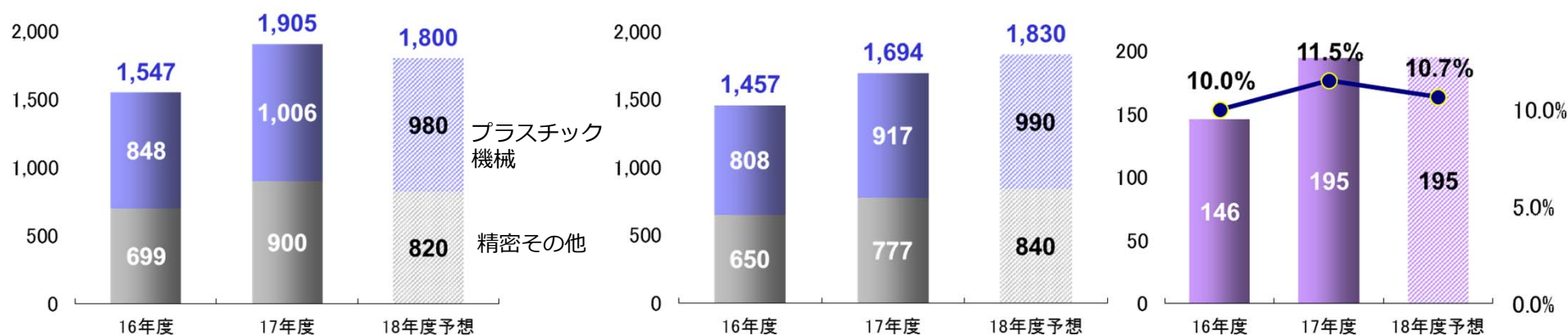
18年度： 医療機器用の極低温冷凍機は堅調に推移、半導体関連需要は調整局面の見込み。

単位：億円

受注

売上

営業利益



02

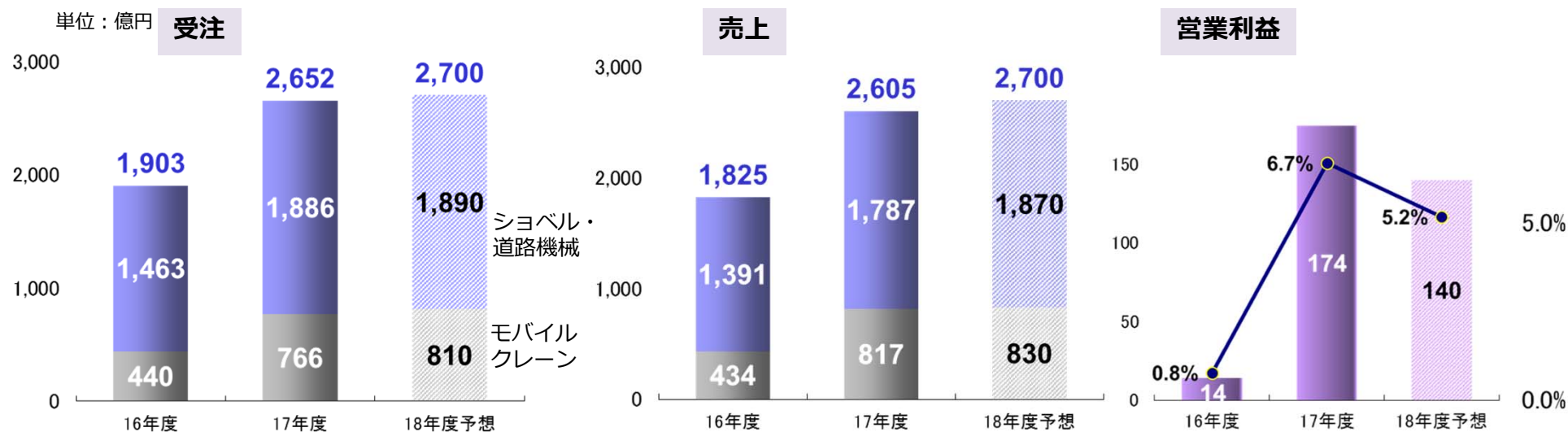
建設機械

<油圧ショベル>

- 17年度：** 中国・北米をはじめ海外および国内ともに需要が増加。
国内の2014年排ガス規制基準に適合した新型油圧ショベルの販売を開始、
中国・インドネシアの工場は需要回復に伴い操業回復。
- 18年度：** 中国・北米をはじめ全エリアで堅調な需要が継続する見込み。
国内外の生産拠点の能力増強、北米サービス拠点の強化等を進める。

<モバイルクレーン>

- 17年度：** 北米市場が回復傾向、HSCを連結子会社化。
- 18年度：** 国内市場は縮小傾向も北米市場は回復継続の見込み。
LBCとHSCの協業強化を進める。



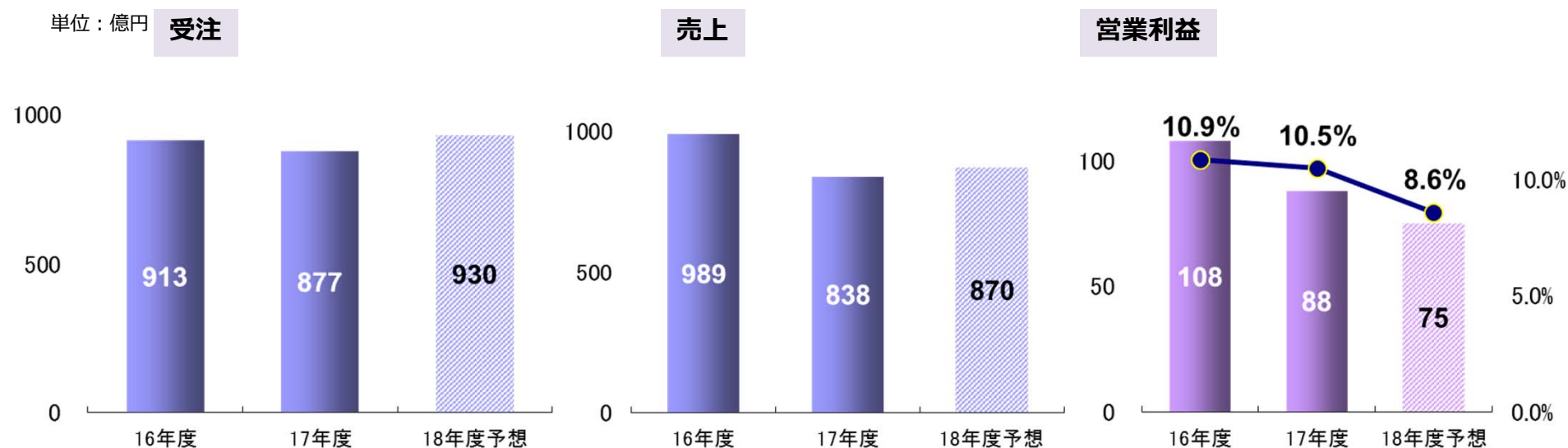
02

産業機械

- 17年度：** 受注は、運搬機械が減少も鍛造プレス他が増加。
 売上は、医療関連機械は増加も運搬機械およびタービンは減少。
- 18年度：** タービンは回復傾向、鉄鋼・電力・港湾向け運搬機械や
 配送センター自動化に対応した物流製品の拡販を見込む。
 S T A Fの商品化、B N C Tの医療機器化に向けて積極的な
 開発投資を推進。

※ S T A F：当社独自開発、自動車ボディ・フレームの新製造システム

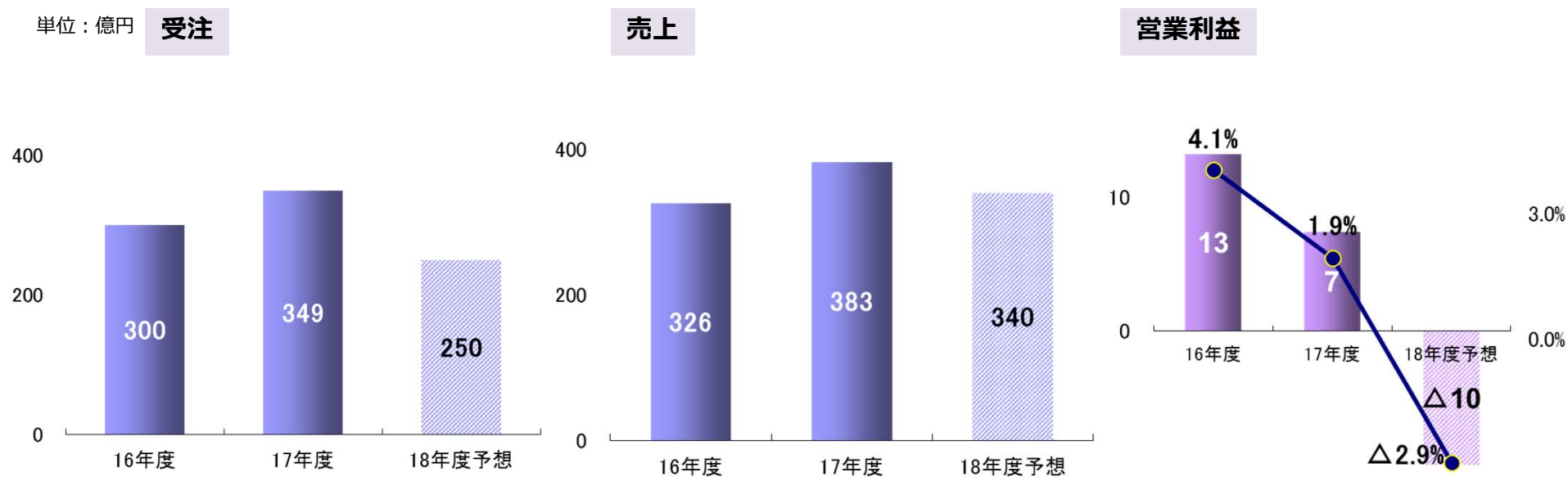
※ B N C T：ホウ素中性子捕捉療法。次世代のがん治療装置



02

船舶

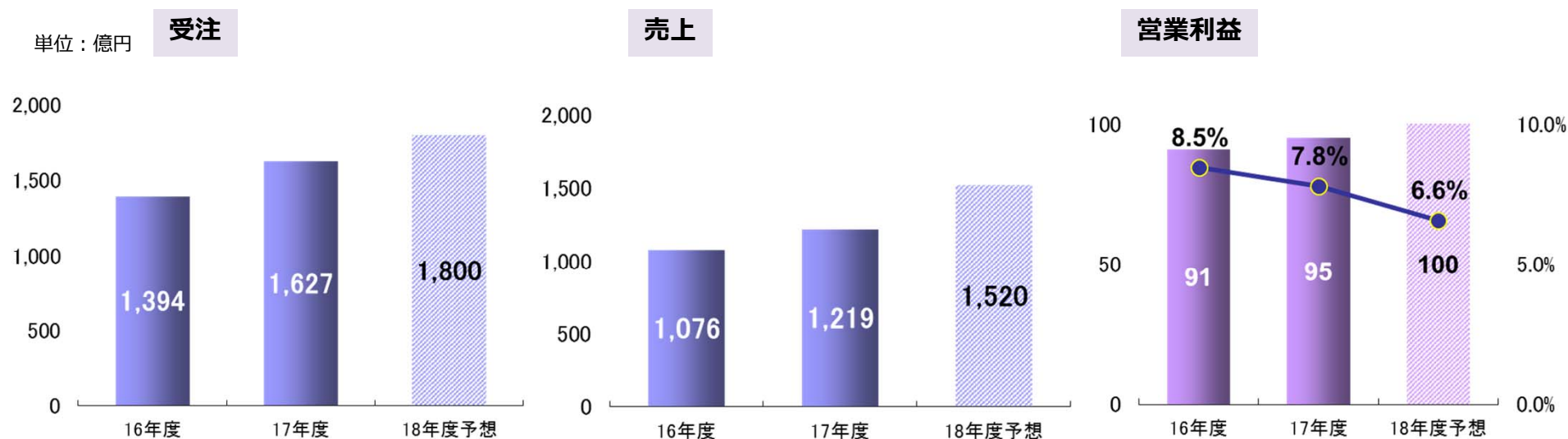
- 17年度：** 新造船の市況低迷が継続。
前年同期比1隻増の4隻の受注、同2隻増の5隻の引渡し。
- 18年度：** 新造船の市況低迷が長期化。
現状の建造体制を維持し3隻の受注を見込む。
引渡しは4隻の予定。



02

環境・プラント

- 17年度：** 受注は、エネルギープラント事業がSFW連結化（半期）に加え、国内向けバイオマス発電設備が増加、水処理プラント事業は長期包括運営管理事業が減少。売上は、エネルギープラント事業のSFW連結化（半期）により増加。水処理プラント事業は住友重機械エンバイロメントに運転管理・アフターサービス事業を統合。
- 18年度：** エネルギープラント事業はSFWが通年連結され受注・売上増加、国内バイオマス発電設備も堅調。水処理プラント事業は新設案件が減少することから受注・売上は減少。



02

2018年度セグメント別業績予想まとめ

単位：億円

		2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 予想
機械コンポーネント	受注高	974	1,151	1,150
	売上高	986	1,094	1,170
	営業利益	91	118	125
精密機械	受注高	1,547	1,905	1,800
	売上高	1,457	1,694	1,830
	営業利益	146	195	195
建設機械	受注高	1,903	2,652	2,700
	売上高	1,825	2,605	2,700
	営業利益	14	174	140
産業機械	受注高	913	877	930
	売上高	989	838	870
	営業利益	108	88	75
船舶	受注高	300	349	250
	売上高	326	383	340
	営業利益	13	7	△10
環境・プラント	受注高	1,394	1,627	1,800
	売上高	1,076	1,219	1,520
	営業利益	91	95	100
その他	受注高	80	77	70
	売上高	83	78	70
	営業利益	21	21	15
合計	受注高	7,111	8,640	8,700
	売上高	6,743	7,910	8,500
	営業利益	484	699	640

03 「中期経営計画2019」進捗

03

「中計19」進捗まとめ

- ・変減速機、射出成形機などでさらに投資を積極化。

	「中計」19目標	2017年度 実績	2018年度 予想	2019年度 計画
数 値 目 標	売上高：8,000億円（2019年度）	7,910億円	8,500億円	8,600億円
	営業利益率：7.5%（"）	8.8%	7.5%	7.8%
	ROIC：7.5%以上（"）	10.3%	8.9%	8.8%
配当性向：30%レベル維持		30.1%	30.0%	30%レベル
設備投資：800億円(3か年 ※決裁ベース)		360億円	460億円	360億円
研究開発：520億円(3か年)		148億円	203億円	200億円

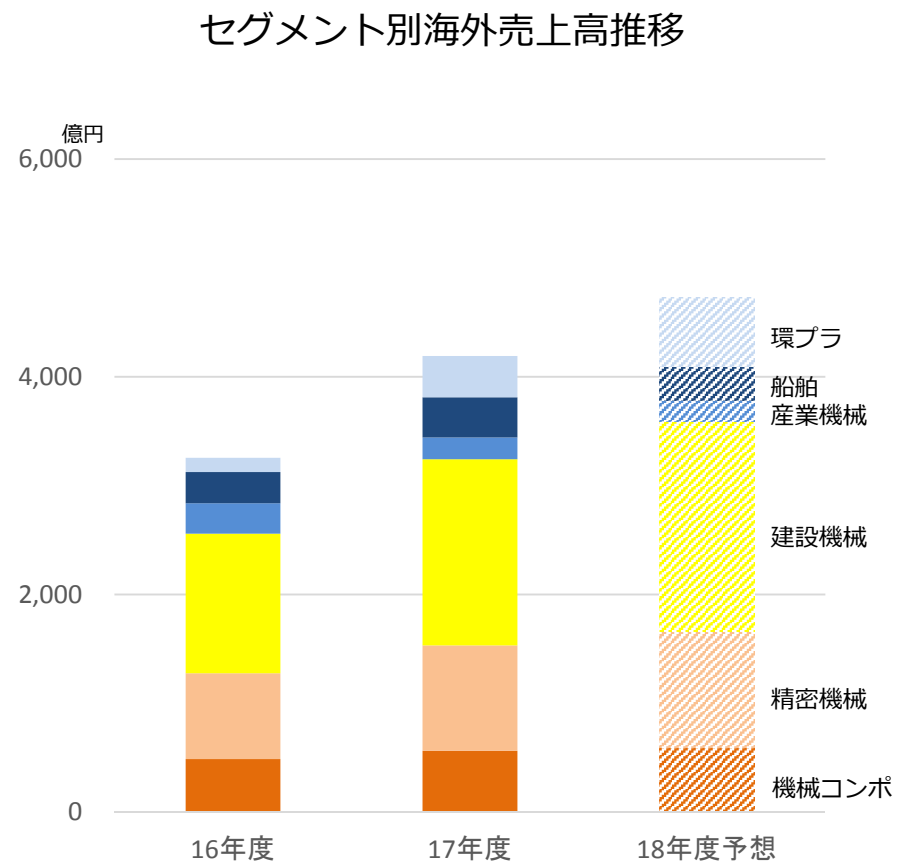
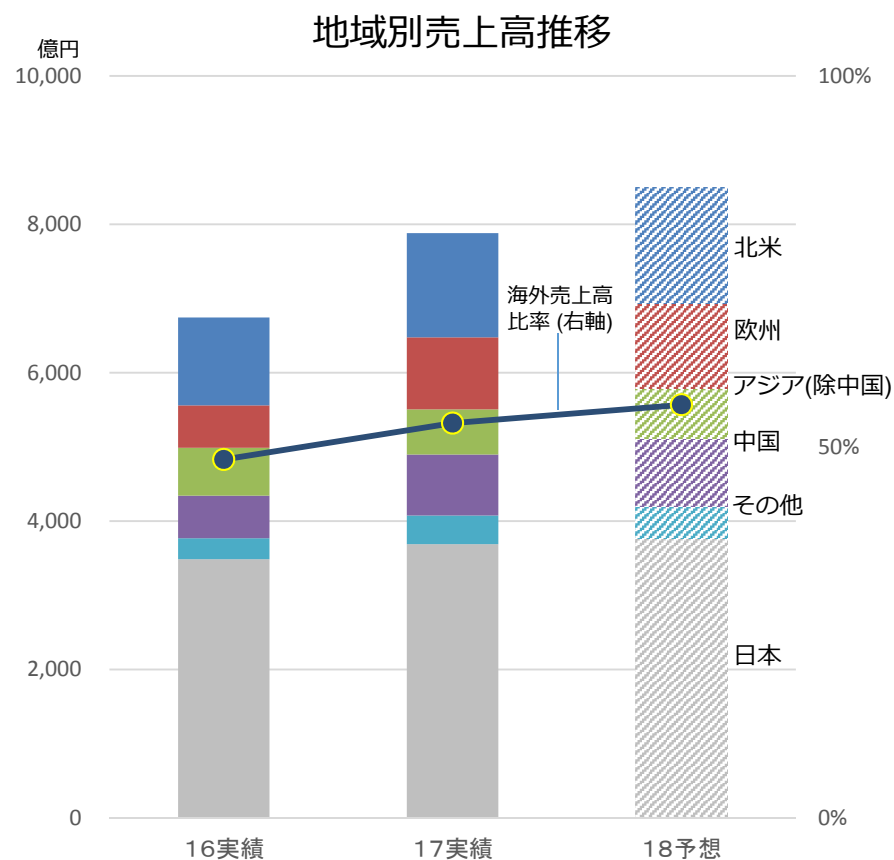
03

基本方針の進捗

基本方針	具体的展開
①「着実な成長」の実現	グローバルでの伸長(特に量産系) 新商品開発・投入の加速
②「高収益企業体」への転換	各事業の役割に応じた投資(開発・設備・人材) 実行 自立化(営業利益5%以上)
③「たゆみなき業務品質改善」による一流の商品・サービスの創出	業務品質の飛躍的改善 アフターマーケット・ビジネス強化 システム技術(ICT、IoT)の積極的活用推進
④積極的な「M&Aおよび事業提携」等の実施	組織統合や連携を図り、積極的にM&Aや他社との事業提携・協業実施
⑤非財務目標の設定とCSRの積極推進	商品・サービスを通じた社会課題解決、製品品質向上、納期遵守・短縮、ダイバーシティ、環境

03

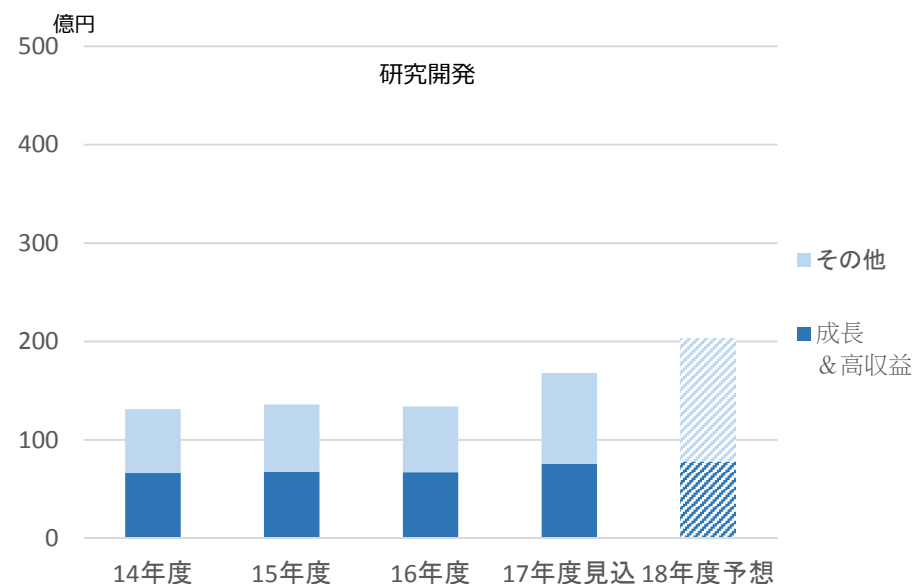
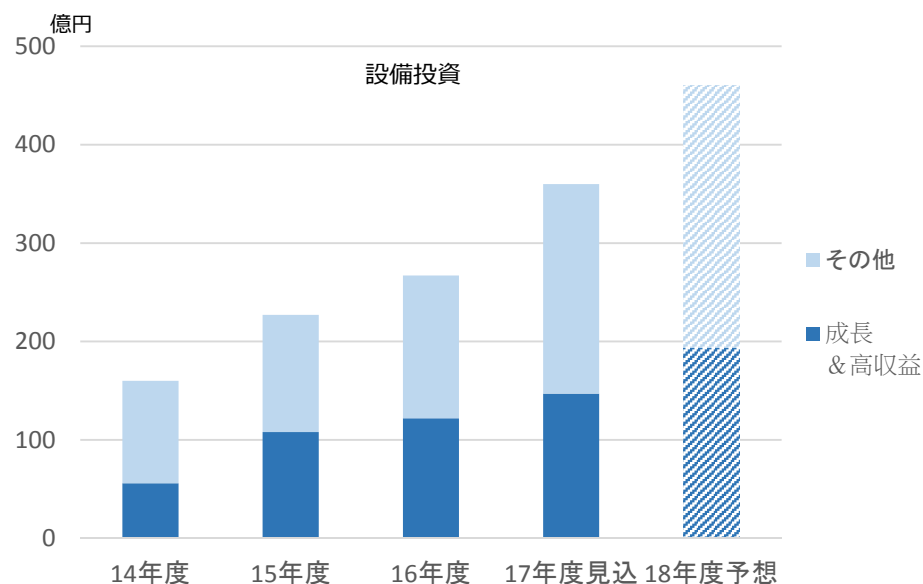
基本方針① 海外売上高推移



- ・ 量産機械系および環境・プラントで海外売上高が順調に増加
- ・ 地域別では北米・中国が牽引。その他の地域も堅調を見込む
- ・ 海外売上高は17年度、18年度と拡大基調

03

基本方針② 投資実施状況（設備・開発）



位置付け	主要設備投資	主要開発投資
成長 & 高収益	サービステクニカルセンター（変減速機） 海外生産設備増強（変減速機） 国内生産設備増強・更新（変減速機、 射出成形機）	ロボット用精密減速機（変減速機） 欧州市場向け全電動射出成形機（射出成形機）
収益力強化	新CFBパイロット試験装置（ボイラ）	次期排ガス対応（シヨベル）
収益安定化	自動車車体部品軽量化製造システム STAF評価設備（産業機器）	自動車車体部品軽量化製造システム STAF（産業機器）

03

研究開発投資 <射出成形機 新製品>

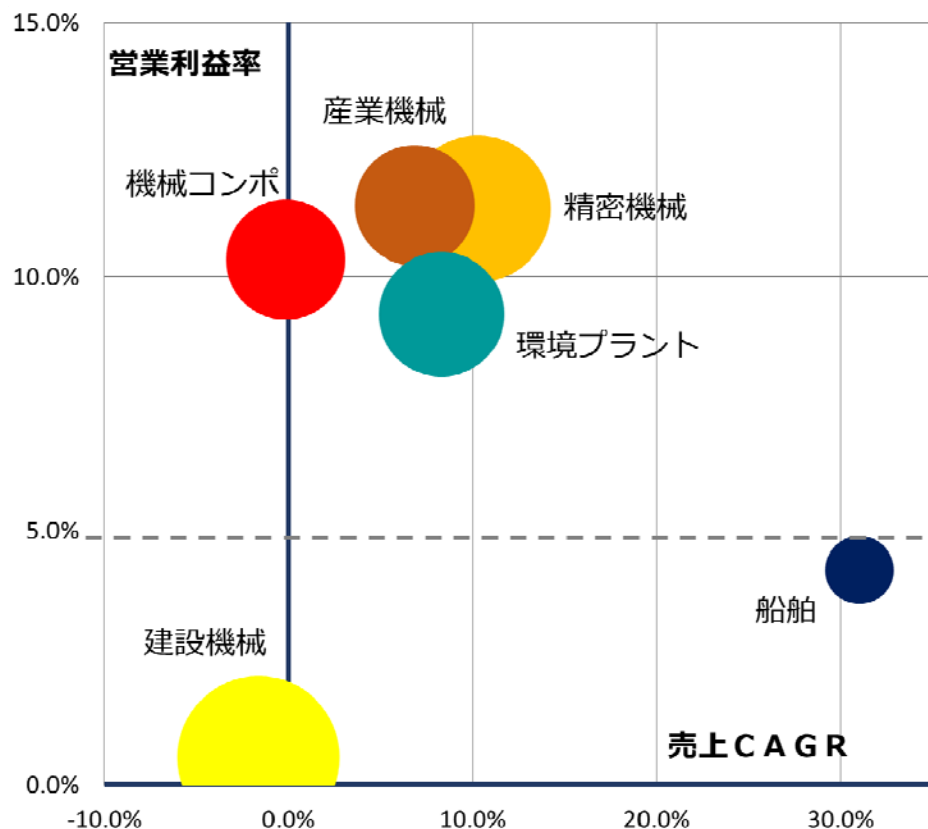
- ・ 住友重機械の電動技術をベースに欧州向けに開発、17年5月上市
- ・ デマーク社の電動射出成形機「IntElect」シリーズの最新モデル
- ・ 産業用や光学向けの精密成形を得意とし、設置面積従来比10%削減



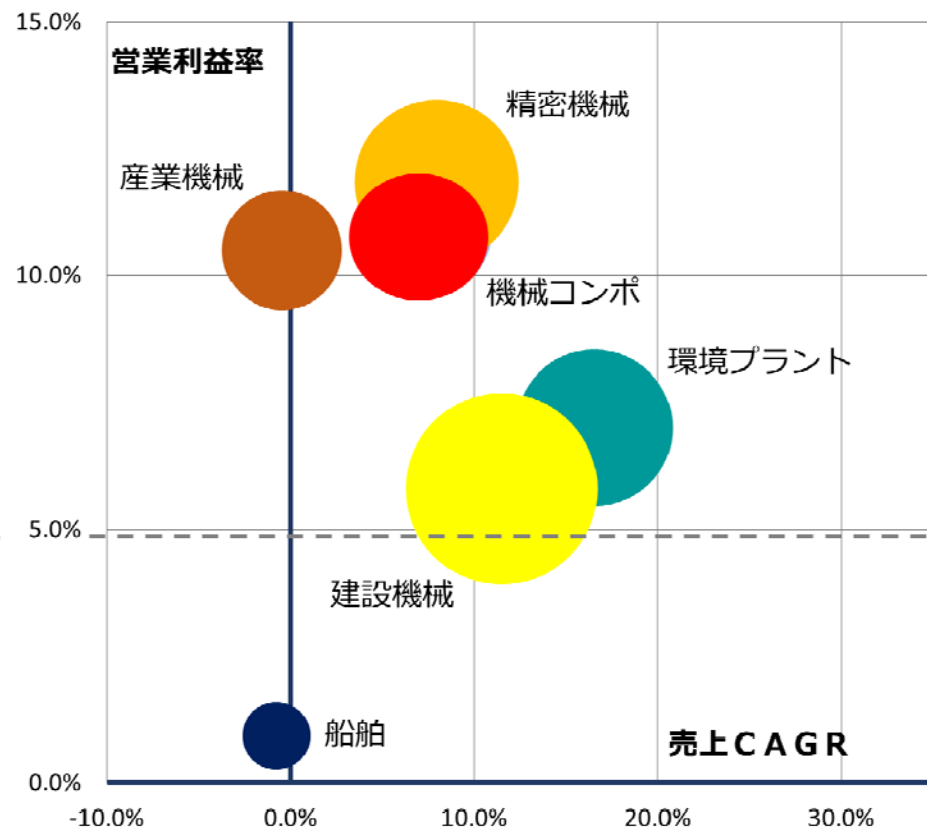
03

基本方針② セグメント別業績（売上CAGR／営業利益率）

「中計16」 売上:13年度実績→16年度実績
利益率:16年度実績



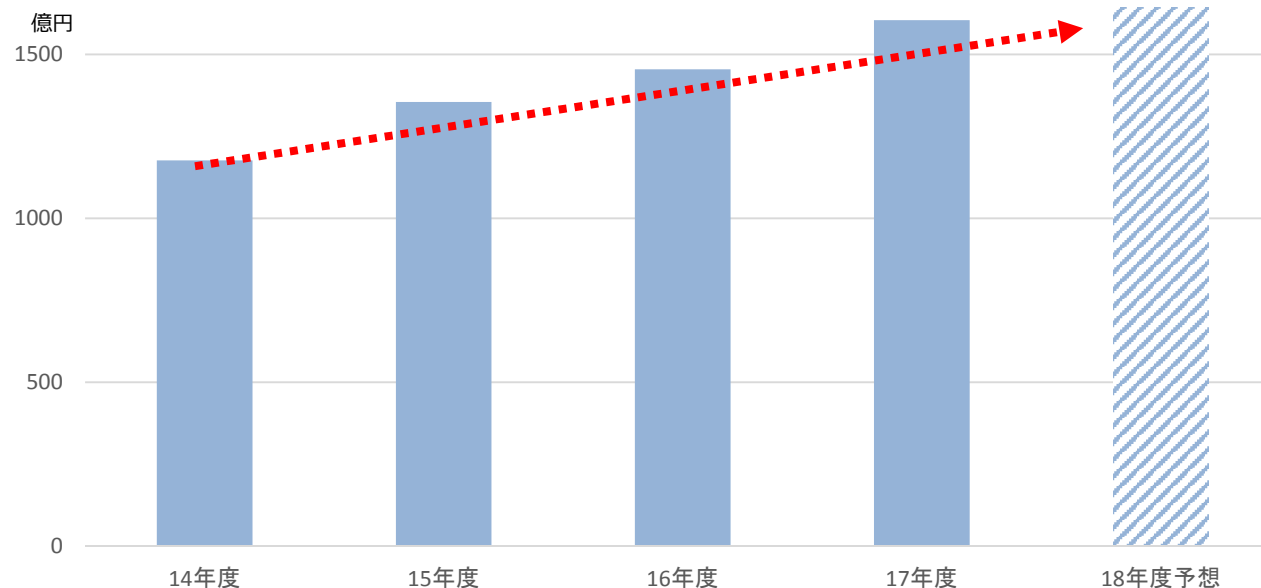
「中計19」 売上:16年度実績→19年度計画
利益率:19年度計画



- ・「中計19」では船舶セグメントを除き5%以上の利益を確保
- ・環境・プラントセグメントはまずは成長を目指す

03

基本方針③ アフターサービス売上高推移



<アフターサービス強化策>

1. 顧客価値提案活動によるリプレース需要創出 (極低温冷凍機)
2. プラント事業とサービス事業の統合、好循環 (水処理)
3. 再生事業拡大、IoT活用の整備提案 (油圧ショベル)
4. 点検・診断から補修提案へのプッシュ型への転換 (運搬機械)

<上記以外の増加要因> H S C、S F Wが連結対象に

03

基本方針④ 組織統合・連携

- ・ クライオ事業における半導体向け事業領域拡大
- ・ モバイルクレーン事業におけるHSCとLBCとの協業強化
- ・ ボイラ事業における国内外協業強化

単位：億円

セグメント	新規連結会社	17年度実績		18年度見込	
		受注高	売上高	受注高	売上高
精密機械	Persimmon Technologies	11	10	30	30
建設機械	住友重機械建機クレーン	334	384	350	350
環境・プラント	Sumitomo SHI FW (SFW)	196	253	500	500

※2017年度の連結期間は、Persimmon社は2Q以降（9カ月）、SFW社は3Q以降（6カ月）



住友重機械工業株式会社

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。